

第3期中期目標期間（4年目終了時評価）に係る業務の実績に関する評価結果
 国立大学法人名古屋大学

1 全体評価

名古屋大学は、基礎学術に立脚した基幹的総合大学としての役割と、その歴史的・社会的使命を確認し、学術活動の基本理念として「名古屋大学学術憲章」を平成12年に定めており、自由闊達な学風の下、人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命としている。とりわけ、人間性と科学の調和的発展を目指し、人文科学、社会科学、自然科学をともに視野に入れた高度な研究と教育を実践することを目標としている。第3期中期目標期間においては、創造的な研究活動によって真理を探究し世界屈指の知的成果を生み出すこと、自発性を重視する教育実践によって論理的思考力と想像力、国際性に富んだ勇気ある知識人を育てること、自律的なマネジメント改革等を基本的な目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況及び主な特記事項については以下のとおりである。

	特筆	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れ	重大な改善
教育研究						
教育			○			
研究	○					
社会連携			○			
その他			○			
業務運営		○				
財務内容		○				
自己点検評価			○			
その他業務		○				

（教育研究等の質の向上）

窒化ガリウム（GaN）研究の推進として、GaN研究コンソーシアム（現GaNコンソーシアム）と連携してGaN研究をオールジャパンで推進する体制を構築し、オープン・イノベーションのための新しい産学官連携研究開発体制を構築し、結晶成長、物性評価、デバイス設計・プロセス、回路・システムをunder-one-roofで垂直統合した世界唯一のGaN研究拠点として、研究開発の加速を図るため、エネルギー変換エレクトロニクス実験施設（C-TEFs）を建設している。また、アジア戦略の展開として、6研究科がプログラムを実施するアジアサテライトキャンパス学院において、将来の国家中枢人材を学生として受け入れており、プログラムの修了生が副大臣に就任する等活躍している。

（業務運営・財務内容等）

新たなマルチキャンパス・システムの実現のため、岐阜大学とともに東海国立大学機構を設立している。教育の共同基盤としてアカデミックセントラルを整備するとともに、イノベーション創出環境を整備・強化するため、学術研究・産学官連携統括本部を設置することを決定している。加えて、機動的な改革を支えるシェアド・ガバナンスの構築に向けて、プロボストの設置や部局の中長期ビジョンを策定している。また、学術研究・産学連携推進本部のリサーチ・アドミニストレーター（URA）が組織マネジメントを行うことで、部局横断の共同研究実施体制を構築している。その結果、「共同研究参画経費」や

45 名古屋大学

「戦略的産学連携経費」の負担を企業に求める指定共同研究制度を創設し、全国に先駆けて共同研究における費用負担の適正化を図っているほか、産学ジョイントラボ制度等多様な産学連携制度を創設している。

一方で、大学院専門職学位課程における学生定員の未充足があったことから、改善に向けた取組が求められる。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

<評価結果の概況>

	特筆	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
(I) 教育に関する目標			○			
①教育内容及び教育の成果			○			
②教育の実施体制			○			
③学生への支援			○			
④入学者選抜			○			
(II) 研究に関する目標	○					
①研究水準、成果及び実施体制		○				
(III) 社会連携及び地域に関する目標			○			
(IV) その他の目標			○			
①グローバル化			○			
②学術の基盤			○			

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、4項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

1-1教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

45 名古屋大学

1-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ リーディングプログラムの高評価

博士課程教育リーディング6プログラムを展開し、グリーン自然科学国際教育研究プログラム、PhD プロフェッショナル登龍門及び実世界データ循環学リーダー人材養成プログラムの3プログラムで総括評価「S」(最高位)を獲得している。(中期計画 1-1-1-2)

(特色ある点)

○ 英語力強化に向けた教養教育の充実

全学教育科目である英語の課外教材として、e-learning 教材の見直しを行い、令和2年度より全学教育科目「英語基礎」、「サバイバル」及び「英語コミュニケーション」において課外で使用する新 e-learning 教材「Academic Express 3」が完成している。(中期計画 1-1-1-1)

1-2教育の実施体制等に関する目標 (中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-2-1 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 国際通用性の向上

教育システムの国際標準化として、クォーター制の授業にも対応できる春学期及び秋学期をそれぞれ2期に分ける全学学年暦を平成29年度に導入し、平成29年度に新設した情報学部及び情報学研究科では、ほぼ全ての開講科目をクォーター制により実施している。(中期計画 1-2-1-1)

○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

新型コロナウイルス感染症の影響下における学生の海外留学や国際交流の機会の確保のための取組として、「e留学」プログラムを実施している。同プログラムは、国内に留まりながら留学に近い雰囲気を感じ学べるプログラム（留学生と日本人学生が共に学ぶ授業の履修、語学講座を含む留学準備講座開講、協定校におけるオンライン海外特別研修受講等）であり、グローバルに通用する教育を実現するための新たなプログラムと位置付けている。

1-3学生への支援に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由） 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-3-1（小項目）

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

（判断理由） 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

（優れた点）

○ 学生への経済的支援の充実

ホシザキ奨学金（平成28年度設立）の給付対象人数の拡大（平成28年度5名、平成29年度12名、平成30年度21名、令和元年度28名）、名古屋大学基金特定基金修学支援事業の整備（令和元年度において27の目的指定事業を実施）、学生の大学院博士課程後期課程への進学を支援するための特定基金を活用した奨学金の整備等、学生への経済的支援のための奨学金制度等が充実している。（中期計画 1-3-1-2）

（特色ある点）

○ 留学生の国内就職への支援

愛岐留学生就職支援コンソーシアムにおける留学生への国内就職の支援を行っている。愛岐留学生就職支援コンソーシアムにおける産学官の連携を通じ、文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム（平成29年度採択）」を継続的に実施している（令和元年度における参画機関は15機関）。例えば、留学生と企業の相互理解を図る機会を提供するために、シンポジウム「留学生の活躍×企業と地域の活性化を考える」（参加数：企業73社95名、留学生61名）等を開催している。（中期計画 1-3-1-1）

45 名古屋大学

1-4 入学者選抜に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由） 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-4-1（小項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

（判断理由） 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

（特色ある点）

○ 教学IRによる入試データの分析

教育基盤連携本部の下に教学 IR 検討ワーキンググループを設置し、教学 IR システム構築に必要なソフトウェア・ハードウェアを導入し、基本データの取り込みを行い、基本分析項目についての分析を開始している。また、教学 IR システムにより、入学者選抜試験に係るデータの分析を行っている。（中期計画 1-4-1-1）

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目)が1項目であり、当該中項目が「計画以上の進捗状況にある」であることから、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

2-1 研究水準、成果及び実施体制等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「研究水準、成果及び実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

2-1-1 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「次世代半導体の早期実用化に向けた研究の推進」が特色ある点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 国際研究拠点に対する研究支援体制の強化

令和元年10月に、トランスフォーマティブ生命分子研究所(ITbM)、素粒子宇宙起源研究所(KMI)等の国際研究拠点によって構成される国際高等研究機構を設置している。同機構は、統括的なマネジメント体制を強化することで、これらの国際研究拠点に対して、研究支援体制を強化し、国際広報・アウトリーチ機能を強化する等により、戦略的かつ組織的な支援体制を強化することを目的としている。(中期計画2-1-1-1)

45 名古屋大学

○ 次世代半導体の早期実用化に向けた研究の推進

窒化ガリウム (GaN) 研究の推進として、GaN 研究コンソーシアム (現 GaN コンソーシアム) と連携して GaN 研究をオールジャパンで推進する体制を構築し、オープン・イノベーションのための新しい産学官連携研究開発体制を構築し、結晶成長、物性評価、デバイス設計・プロセス、回路・システムを **under-one-roof** で垂直統合した世界唯一の GaN 研究拠点として、研究開発の加速を図るため、エネルギー変換エレクトロニクス実験施設 (C-TEFs) を建設している。(中期計画 2-1-1-3)

○ 新型コロナウイルス感染症に係る研究

新型コロナウイルスに感染することで体内にできる「抗体」と同様のたんぱく質を人工的に作製する方法を開発している。具体的には、名古屋大学の村上裕教授の研究グループは 10 兆を超える人工の抗体の中から特定のウイルスに結びつくものを速やかに選り出す「TRAP 提示法」という新しい技術を開発している。この人工抗体が付いたウイルスは細胞に感染しなくなることも確認されており、新たな治療薬や抗原検査キット、さらにワクチンに代わる感染防止薬の開発につながる成果と期待される。

新型コロナウイルスの感染力を抑え、空気を清浄にしながら自律走行するロボットを開発している。具体的には、ノーベル物理学賞受賞者の天野浩・名古屋大学教授らのチームと地元自動車設備メーカーが、紫外線の一種の「深紫外線」を照射するランプと発光ダイオード (LED) を搭載した新型コロナ対策ロボットを開発している。

(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

3-1-1（小項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ イノベーション・エコシステムの進展

平成30年に文部科学省「オープンイノベーション機構の整備事業」に採択されたことにより、産学官共創によるイノベーション・エコシステムの創出のための新組織として、名古屋大学未来社会創造機構オープンイノベーション推進室を設置している。これにより「競争領域」と「協調領域」を明確にした「組織対組織」の共同研究を推進する体制の整備を進めている。また、文部科学省「産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）」に採択され、令和元年に新たな拠点となる物質・エネルギーイノベーション共創コンソーシアムを設立している。

これらの体制の整備により、GaN研究コンソーシアムにおいて参画機関とのクロスポイント制度による研究者交流及び共同研究の締結やエネルギー変換エレクトロニクス実験施設（C-TEFs）の利用料収入（年間維持費の7割相当）を得ている。（中期計画3-1-1-1）

○ 省エネルギー社会実現に向けた研究

GaN研究コンソーシアムによる産学官共創の取組により、産総研・名大窒化物半導体先進デバイスオープンイノベーションラボラトリ（GaN-OIL）において、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）「低炭素社会を実現する次世代パワーエレクトロニクスプロジェクト」を受託している。さらに、物質材料研究機構（NIMS）と連携し、NIMS・名大GaN評価基盤研究ラボラトリー天野・小出共同研究ラボの設置を完了し、文部科学省「省エネルギー社会の実現に資する世代半導体研究開発（評価基盤領域）」の研究開発を強化している。（中期計画3-1-1-1）

45 名古屋大学

○ 大学間連携によるアントレプレナーシップ教育

名古屋大学が中心になり、東海地区の5つの国立大学が連携して、東海地区の学生を対象とした起業家思想の教育プロジェクト「Tongaliプロジェクト」を、平成29年度次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）として実施している。（中期計画3-1-1-1)

(IV) その他の目標

(1) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「その他の目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、2項目が「順調に進んでいる」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

4-1 グローバル化に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

4-1-1 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ アジア地域の国家中枢人材の育成

アジア戦略の展開として、6研究科(教育発達・法・医・生命農・国際開発・環境)がプログラムを実施するアジアサテライトキャンパス学院において、官僚等の将来の国家中枢人材を学生として受け入れている。なお、同プログラム修了生が副大臣等に就任するなど、国家中枢人材として活躍している。(中期計画4-1-1-2)

(特色ある点)

○ 国際的な課題解決に資する研究

平成29年度に、人文・社会科学系を中心とした教育研究組織であるアジア共創教育研究機構を設置し、アジアをはじめ国際社会が直面する共通課題に対し、その解決につながる成果を迅速に社会に還元することを目的とした研究活動を推進している。(中期計画4-1-1-2)

4-2 学術の基盤に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「学術の基盤に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

45 名古屋大学

4-2-1 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 附属図書館の充実

附属図書館所蔵の「高木家文書」(国の重要文化財に指定)について、平成30年度に、整理・保存・公開のためのクラウドファンディングを実施し、244万円余(目標額150万円)の支援を得て、デジタル画像化事業等を実施している。また、東海地区の金融機関から長期の高額支援(10年間総額3,000万円)を得て、附属図書館内に企業名を冠した資料館を開設・整備し、常設展の開催やVRによる電子展示等を行っている。

(中期計画4-2-1-2)

(2) 附属病院に関する目標

医療の質と安全性の持続的向上のため、医療人材育成プログラムを開講するとともに、革新的医療技術創出拠点として最先端臨床研究の推進に取り組んでいる。診療面では国立大学病院で初めて「JCI認証」を取得し、医療の質と安全性の持続的向上に取り組んでいるほか、高度で先進的な医療の実現のための施設の設備と機能強化を行っている。また、継続的な病院経営の質向上に取り組むとともに東海国立大学機構岐阜大学とのデータ統合に向けたデータベースの稼働を推進している。

<特記すべき点>

(優れた点)

(教育・研究面)

○ 質の高い医療人材育成の推進・向上

質の高い医療人材育成や教育機能の向上を目的とした「明日の医療の質向上をリードする医師養成プログラム」(ASUISHI)では、当該プログラム開設から5年間で修了者は合計89名となり、当初の目標(20名)を大きく上回っている。令和元年度からは、厚生労働科学研究補助金事業として、「新・ASUISHI 最高質安全責任者(CQSO)養成研修プログラム」を開講し、最高質安全責任者としての礎が各受講者に提供され、質の高い医療人材育成の推進に取り組んでいる。

○ 革新的医療技術創出拠点としての最先端臨床研究の推進

名古屋大学臨床研究審査委員会を組織し、学内外の「特定臨床研究」の審査を可能にだけでなく、「臨床研究（努力義務）」についても審査を行っている。令和元年度には、特定臨床研究の新規申請について中央審査を17件実施し（うち3件は外部機関からの審査依頼）、中央倫理審査を積極的に実施している。また、国立研究開発法人日本医療研究開発機構が実施する中央IRB促進事業の分担事業に採択され、国内調査を行っており、確信的医療技術創出拠点としての最先端臨床研究の推進に取り組んでいる。

（診療面）

○ 医療の質と安全性の持続的向上

質の高い医療の提供のために、国際的な医療評価機関「Joint Commision International」（JCI）の基準に沿ったマニュアル（方針・手順書）を作成するなどし、平成30年度に国立大学病院で初めて「JCI認証」を取得しており、医療の質と安全性の持続的向上に取り組んでいる。

○ 高度で先進的な医療の実現のための施設の設備と機能強化

「重症心不全治療センター」の設置やがんゲノム医療の中核を担う「がんゲノム医療中核拠点病院」に指定されている。令和元年度には、病床再編計画に基づき、ハイケアユニット（HCU）の運用を開始し、また、診療科を横断してがん薬物療法を行う連携体制を構築し、エキスパートパネルで検討を行っており、一部においては治験又は患者申出療養制度につなげるなど、高度で先進的な医療実現のための施設の設備と機能強化に取り組んでいる。

（運営面）

○ 継続的な病院経営の質向上

継続的・安定的な病院運営のための外部評価として、「日本版医療MB賞クオリティクラブ（Japan Healthcare Quality Club）」のプロフィール認証を取得し、継続的な病院経営の質向上が図られる仕組みを導入している。令和元年度には、患者の安全に関わる病院の基本機能を徹底的に磨き上げるために、各種目標の設定、モニタリング体制を強化することで、四半期ごとに業務の改善活動の継続が可能となっており、継続的な病院経営の質向上に取り組んでいる。

○ 東海国立大学機構岐阜大学とのデータ統合に向けたデータベースの稼働

開発業者が異なる名古屋大学と岐阜大学それぞれの電子カルテからのデータ統合を目的とした標準化リポジトリシステムの開発・稼働を行い、データ出力が可能なことを検証している。

さらに、岐阜大学との共同研究を推進するためデータ解析基盤の構築・強化を進めている。

45 名古屋大学

(3) 附属学校に関する目標

附属学校は、併設型中高一貫校の特色を生かし、中高大接続によるカリキュラム開発と実践の研究に取り組むとともに、国外の高等学校との留学生の受入・派遣や国際会議の開催等を通じてグローバル化を見据えた教育内容の高度化に取組、附属学校の国際化を推進している。

また、これらの取組については名古屋大学松尾イニシアティブNU MIRAI 2020において「国立大学の附属学校としての機能の点検と推進、大学の発展への活用」としての項目を立て、附属学校としての在り方を明確化している。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 大学と連携した教育の取組

名古屋大学教養教育院と連携し、大学の全学教育科目を受講できるようにしたほか、附属学校生を対象に大学教員による合宿セミナー「中津川プロジェクト」を実施している。

また、生徒たちが自ら研究課題を設定し、実験・観察を通して仮説を検証する教育方法を採用し開設された科目「Science Technology Engineering Art Mathematics」のTechnology分野において、名古屋大学大学院情報学研究科附属組込みシステム研究センターと連携し、附属高等学校の生徒へのプログラミング教育を実施している。

○ 附属学校の国際化の推進

海外の高等学校と積極的に姉妹校協定の締結や留学生交流に取り組むとともに、附属学校が開催する初めての国際会議「アジア高校生国際会議」を実施している。また、培ってきた国際交流の実績と成果を他の学校にも普及するため、国内の国公私立の高等学校と連携し授業方法開発等を行っている。

Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況

＜評価結果の概況＞	特筆	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○				
(2) 財務内容の改善		○				
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営		○				

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標
①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化
<p>【評定】中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある</p> <p>(理由) 中期計画の記載7事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、特筆すべき点があるが、大学院専門職学位課程における学生定員の未充足があること等を総合的に勘案したことによる。「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された計画(3事項)についてはプロセスや内容等も評価)</p>
<p>＜特記すべき点＞</p> <p>(特筆すべき点)</p> <p>○ 地域創生への貢献と国際競争力の推進を目指した新たな法人「東海国立大学機構」の実現</p> <p>新たなマルチキャンパス・システムの実現のため、岐阜大学とともに東海国立大学機構を設立している。教育の共同基盤としてアカデミックセントラルを整備するとともに、イノベーション創出環境を整備・強化するため、学術研究・産学官連携統括本部を設置することを決定している。加えて、機動的な改革を支えるシェアド・ガバナンスの構築に向けて、プロボストの設置や部局の中長期ビジョンを策定しているほか、事務組織として戦略的な人員の配置を目指し、財務会計システムの統一化などの業務を集約化する等大学の強みをさらに強化している。</p>

45 名古屋大学

(優れた点)

○ 世界と連携した男女共同参画の推進

「女性Principal Investigator」(女性PI)、「発展型ポジティブ・アクションプロジェクト」(発展型PAP)による女性教員の採用や、ジェンダー研究に特化したライブラリである「名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ(GRL)」によるジェンダー問題についての知の長期保存・研究・普及・ネットワークの拠点形成を図っている。加えて、平成27年度に国連機関 UN Women等に女性の活躍を推進する世界の10大学として選出された取組を第3期中期目標期間においては学生レベルまで拡大するなど、世界と連携した男女共同参画の取組をさらに推進している。

○ ジョイント・ディグリープログラムの実施による国際的視野をもった人材育成

世界の先端研究を進める海外大学との研究・教育連携の加速及び、博士学位の国際的な質保証を目指して、文部科学省の設置認可を受けて実施する「ジョイント・ディグリープログラム」(JDP)について、全国立大学中最多の6JDP(14ユニット)を設置している。医学系研究科に全国初の国際連携専攻を設置したことを端緒として、理学研究科、生命農学研究科にも設置されており、相手国で学び交流することによる異文化適用能力、国際的な視野を養うための教育や英語による授業を提供することで教育の実質化を図り、世界のトップ大学とのJDPを博士課程教育の高度化、学位の質保証に結びつけて実施している。

○ 若手研究者育成に関する取組

将来が期待される若手研究者を特任助教として採用し、育成する大学独自の制度である「若手育成プログラム(YLC:Young Leaders Cultivation Program)事業」では、研究に専念できる環境を提供するとともに、YLC教員主催でセミナーを開催し、専門分野を超えて研究成果発表等を実施するなど学術の最先端を拓く若手研究者を育成している。平成30年度からは、「学内枠」に加えて、「一般枠」「外国人枠」「女性枠」を新たに設けて公募を行っているほか、YLC教員として採用後4年目で実施するテニユア審査に合格した者にテニユアを付与する助教制度を制定しており、令和2年4月時点で、本事業での採用者は31名在籍している。

(改善すべき点)

○ 大学院専門職学位課程における学生定員の未充足

大学院専門職学位課程について、学生収容定員の充足率が平成28年度から令和元年度において90%を満たしていないことから、学長のリーダーシップの下、定員の充足に向けた対応が求められる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

① 安定した財務基盤の維持

【評定】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(理由) 中期計画の記載5事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の優れた点があること等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ Development Office (DO室) の体制及びファンドレイジングの機能強化

全国初の学長直轄の組織として設置したDevelopment Office (DO室) とファンドレイザーによる連携などファンドレイジング機能の継続的強化の実績として、有価証券、寄附による研究施設建設など現金によらない高額寄附の増加、ネーミングライツの使用許諾の導入など財源の多様化を進め、経営資源の好循環による財務基盤の強化が進んでおり、名古屋大学基金の受入累計額は平成27年度に比して2.9倍となる171億9,600万円となっている。また、企業経営者からの寄附を原資として、将来ものづくりに携わることを希望する経済的に修学困難な学生への給付型奨学金をとして「ホシザキ奨学金」を創設し、第3期中期目標期間において、30名に給付している。

○ 多様かつ強固な産学連携制度の導入

学術研究・産学連携推進本部のリサーチ・アドミニストレーター (URA) が組織マネジメントを行うことで、部局横断の共同研究実施体制を構築している。その結果、「共同研究参画経費」や「戦略的産学連携経費」の負担を企業に求める指定共同研究制度を創設し、全国に先駆けて共同研究における費用負担の適正化を図っているほか、大学教員と企業共同研究員という最小構成で機密性の高い共同研究やベンチャー等の研究開発に対応する産学ジョイントラボ制度等多様な産学連携制度を創設している。指定共同研究制度では令和元年度に26件、産学ジョイントラボ制度では大学発ベンチャー2件の実績がある。

○ 技術移転活動の推進による知的財産権活用率の増加

大学の知財部門において出願・権利化から技術移転まで一貫して行う体制を構築し、最終的な技術移転を意識した出願・権利化活動を実施しているほか、発明者に対するインセンティブの向上や権利棚卸の徹底等の取組により、第3期中期目標期間における知的財産権活用率が100.3% (H28: 56.7%→第3期: 100.3%)、申請件数は203件 (H27:177件→第3期: 203件)、著作権・特許使用料収入1億7,857万円 (H28: 1億1,970万円→第3期: 1億7,857万円) に増加している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 中期計画の記載4事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設・設備の整備・活動、安全管理等 ②法令遵守等

【評定】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(理由) 中期計画の記載6事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の優れた点があること等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 解体予定の建物を活用した実験や防災訓練の実施

解体予定の建物（共同教育研究施設及び実験棟）を活用し、化学物質の燃焼実験や、実火災に伴う煙の発生・流動実験等を実施（延べ10回、約90名が参加）するとともに、同建物を名古屋市内の消防署に開放し、消防隊の訓練の場として提供している。消防隊による訓練には延べ18回、約360名の消防隊員が参加し、大学での防火・防災、安全のための意識啓発とスキルアップを図ったほか、訓練の内容を撮影した安全教材は、学内のみならず、学会、他大学、企業等の安全講習にも広く活用されるなど、継続的に防災への意識啓発やスキルアップに貢献している。

○ 教職共同によるエネルギーマネジメント下の包括的・継続的な省エネルギー対策

インハウスコミッショニングによる消費エネルギーの削減やESCO事業の積極活用による設備改修のほか、「学内版ESCO」として省エネ推進財源の確保と活用による経済的好循環型の仕組みを導入するなど、計画的な取組を教職協働で実践している。これらの名古屋大学構成員全員による省エネルギーへの取組が、一般財団法人省エネルギーセンター主催の平成29年度省エネ大賞（省エネ事例部門）において、資源エネルギー庁長官賞（業務分野）の受賞につながっている。また、キャンパスを一つの実験場ととらえた学内省エネ実証研究を推進した結果を学内の省エネルギー対策にも活用しており、令和元年度においてCO₂排出量を27.3%削減（平成17年度比）している。